

平成 27 年 10 月 29 日

南の風 158

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

157号で触れたように、モーションオフenseはパターンオフenseではありません。最初に決まった形の動きがあり、プレイヤーがその約束にしたがってカットやスクリーンに行くオフenseではないのです。

しかし、モーションオフenseをビデオで観た日本の多くのコーチは、映像通りにプレイすることがモーションオフenseであると解釈してしまったようです。映像で紹介していたものはあくまでオプション（選択できるプレイ）でした。オプションプレイとは、ボールを持った選手が攻め方を選択するのです。思い切って1対1で攻める場合や、パスを捌くことがあります。まわりの選手は常に合わせる準備はしておくのです。ですから、いつも決まったプレイをするのではないのです。またDVD等、映像でのセットアップ（オールアウトや4アウト1インなど）は1つの例であり、便宜上形を決めてプレイを紹介していたのです。

したがってモーションオフenseは、10回やれば10回違った動きになります。なぜなら相手のディフェンスの対応によって、攻め方は変化するからです。

ここで、私が実際取り組んだモーションオフenseの動きを紹介します。（3アウト2インの動きの基本です。）始めはディフェンスを付けずに3対0で行います。（ポストの2人抜きで動きます）

トップと両ウイングの動きです。トップがボールを持ち、右ウイングにパスします。パスした後、トップの選手はインフロントカットからボールがこなければアウェーします。左ウイングの選手は、トップがいた場所にリプレイスします。ボールを受けた右ウイングは、トップに来た選手にパスします。アウェーしたトップの選手は左ウイングにリプレイスです。トップの位置に来た、元左ウイングの選手は、左ウイングにパスします。パスした後は、インフロントカットしてアウェーし、右ウイングにリプレイスします。（右ウイングはトップにリプレイスです）この動きを繰り返します。

注意する指導ポイントを挙げます。（低学年の選手もいる想定です。）

- ①トップと両ウイングの位置に、ラインテープで印をつけます。プレイヤーの距離を掴ませるためです。（5m～7mの間隔）低学年には、最初もう少し間隔を狭くして行いました。
- ②最初はゆっくり動きます。パスの後、ウィークサイドにフェイクを入れてカットします。ボールから目を離さないことが最大のチェックポイントです。
- ③トップの選手はパスした後、必ずカットしますがウイングはカットはせず、カットフェイントし、その位置をキープします。（低学年がいる場合、動きの複雑化を防ぐためです。）

次に、ポストを2人入れます。3アウトは変わりません。ポストは左（リングに向かって）エルボーに1人、右（リングに向かって）ショートコーナーに1人の配置です。トップから右ウイングにパスします。インフロントカットから左ウイングのリプレイスは変わりません。パスを受けた右ウイングはポストへパスインします。パスの後、シザースカットをします。ボールが来ない時は逆サイドのウイングの位置に移動します。トップの位置に来た選手は右ウイングの位置にリプレイスです。